

外房法友会

法政大学校友会
外房法友会 会報
第 20 号

発行所 法政大学校友会 外房法友会
発行人 古山 弘
〒299-4415 長生郡睦沢町小滝475番地1
TEL 0475-44-1869

コロナを超えて同窓生の繋がりを



多摩

市ヶ谷

小金井

令和4年7月2日、3年ぶりに総会を開催することが出来ました。まだコロナの中でありましたので来賓はお呼びせず、会員のみでの参加で開催しました。何人来てくれるか心配しましたが、16名の方に出席いただき、久しぶりに懇親を深めることが出来ました。総会では、令和3年度の事業・会計・監査の報告、令和4年度の事業計画、役員改選と各議案を審議し了承されました。

今現在、コロナが収まったわけではありませんが、ワクチンの効果もあり重傷リスクが下がり、多くの国民が普通の生活を取り戻したいと願っております。このような中、外房法友会は本年も総会、懇親会を開催したいと準備しています。ぜひご参加願います。

ところで、今回はひとつ残念な報告があります。外房法友会会員の「白井浩介」さんが、昨年夏亡くなりました。茂原市で税理士事務所を経営する、まだ40代の前途有望な青年でした。白井さんは税理士会や青年会議所等でも積極的な活動をされていました。このような方を失い、非常に残念でなりません。外房法友会として、ご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご家族の方にお悔やみを申し上げます。

外房法友会は、今後とも、法政大学卒業生が、誰でも気兼ねなく参加出来る会として歩んで参ります。会員の皆様には、会に対するご支援と、積極的な参加をお願い致します。

外房法友会会長 古山弘

阿井伸也さんが千葉県議会議員に再選

4月に行われた千葉県議会議員選挙において、外房法友会会員の阿井伸也さんが7回目の当選を果たされました。阿井さんは大網白里市選出の県議会議員ですが、県全体のバランスの取れた発展のため、特に外房地域の活性化のために働かれるものと期待致します。外房法友会会員皆で阿井さんを応援したいと思います。



第28回法政大学全国卒業生の集い 栃木大会

成嶋 まさる

法政大学の全卒業生を対象にした全国卒業生の集いは、コロナの影響で当初予定されていた秋田大会は中止となり、2022年11月に3年ぶりに栃木県宇都宮で開催され、外房法友会からは、古山会長、花澤さん、成嶋夫婦の4名が参加しました。

成嶋は、栃木県と言えば、漫才師のU字工事ぐらいしか思いうかびません。(栃木県関係者の方には、申し訳ございません)。全国卒業生の集いがなければ、宇都宮に1泊することはたぶんなかったもので、これも一つの良い出会いだと思います。

新幹線で宇都宮に行きましたが、時間が少しあったので、どこに行こうか宇都宮駅前で地図を広げて迷っていたところ、競輪場行きのバスが目にとまりました。60年以上生きてきて、まだ競輪場に行ったことがなく、スマホで確認すると、今日はガールズ競輪も開催されているらしい。早速、バスに乗り込み、競輪場に向かいます。バスでは立川から来たという紳士(?)と交流を深め、競輪場が発行するバスのサービス券をいただき、無料で競輪場まで着くことができました。

「これはツイている。競輪も当たるかも?」ということで、競輪場入り口で、人生初の競輪新聞を購入しました。競輪新聞は550円もするが、これが高いのか安いのか、よくわかりません。競輪新聞を読むと、もっとわかりません。「タテ脚も通用」とありますが、「タテ脚」とは何でしょう? 疑問を抱きながら、競輪場の中に入ると意外に狭く、バンクもそれほど角度があるように見えません。でも実際に自転車が走ると、やはり速く迫力があります。お目当てのガールズ競輪の時間となりました。競輪新聞によれば、171cm78kg37歳の加藤選手が本命で、152cm57kg23歳の鈴木選手が穴のようですが、試走を見ても、だれがだれだかよくわかりません。ヘルメットが大きすぎて顔はよく見えないし、服装は上から下までがっちりガードしてガッチャマンみたいで、馬と違って肌つやで体調の良し悪しは、わかりません。近くのおじさんは熱心にマークシートを塗りつぶしています。マークシートは英語の検定試験以来久しぶりに見ました。まさかおじさんが英語の回答をしているわけではなく、車券をマークシートで購入するようです。予想しているうちに締切時間となり、結局、車券を購入できないままスタートとなり、あっという間にゴール。僅差でだれか勝ったかもわかりません。そうこうしているうちに時間が過ぎ、法政の会場へ向かいます。

会場では、特別公演として、日光東照宮流鏑馬(やぶさめ)の演武が行われました。流鏑馬は初めて見ますが、今回は会場の中で馬が走るわけではなく、回転する木馬にまたがって弓で的を射るというものです。最初はちょっとどうかなと思って見ていましたが、実際に弓を射るとその迫力に、思わず拍手する程です。60歳を過ぎて、競輪以外にも知らないことは、いっぱいあることを痛感しました。その後、懇親会が始まり、菅前首相の祝辞となりました。「総理を辞めてから、人気が出た。」との発言に、笑いも起こり、和やかな雰囲気となり、お酒も程よく入ったところで、応援団リードによる校歌斉唱で、お開きとなりました。

出た。」との発言に、笑いも起こり、和やかな雰囲気となり、お酒も程よく入ったところで、応援団リードによる校歌斉唱で、お開きとなりました。

次回の全国卒業生の集いは、2023年11月に倉敷で開催されます。倉敷にはボートレース場もあるそうです。ぜひ、ご家族一緒に参加しませんか?

(昭和57年 法学部卒)



芭蕉論（二十九）

渡辺光夫

「芭蕉のあそび」

深沢真二著、岩波書店発行、新書版・二五八頁、令和四年十一月発行。

深沢真二、一九六〇年山梨県に生まれ、京大文学卒業、元和光大学教授。

近現代の芭蕉の読者には、どうも、芭蕉晩年の最終進化形の「蕉風」俳諧を基準にして作品を解釈する傾向がある。芭蕉作品に向かい合ってもそこに（あそび）を求めず、日常生活における詩的な感覚や、時には哲学的な合意までもさぐる読み方である。そして、えてしてそうした読み方を、貞門時代・談林時代の若き芭蕉の俳諧にまで当てはめようとす。だから、謹厳実直で笑いの要素から遠い・清僧のような芭蕉翁のイメージができあがっている。

俳諧は（笑いの文学）である。俳諧師芭蕉はいつも、言葉を自在にあやつって、仲間たちや読者たちを（笑い）でもてなそうとしていた。彼の発句の数々を取り上げ、当時人気の古典文学や謡曲をふまえたパロディを確認し、「しゃれ」「もじり」「なぞ」などの技法を分析して、（あそび）の視点から芭蕉俳諧の魅力を再発見する。

○「なぞ」——頭をひねらせる遊び

「元日やおもえさびし秋の暮」
秋の暮に較べれば元日はのどかな静けさだと取

り、元日の静かさから秋の暮の寂しさが思われる。いずれも「元日」と「秋の暮」を組み合わせの突飛きにとまどっている。

著者は、「元日を迎えて新年の希望を述べるならば、秋の暮の寂しきの味わいが今日から待ち遠しいという趣意ではないかと思う。」と言っている。

○「パロディ」——古典の世界にあそぶ

「菘むしのねを聞きに来よ草の庵」

清少納言が「枕草子」で「菘虫が鳴く」と書いたことを踏まえて、八月仲秋という季節を意識しながら、自分も「菘虫のように秋風に吹かれて鳴いております（句を読んでいます）」ので、草庵に聞きに来て下さい。

芭蕉が何かの文学作品を元ネタにパロディ句を詠んだとして、その時代にはすぐ分かる知識であった。

○「もじり」——謡曲であそぶ

「から崎の松は花より朧にて」

「から崎の松は小町の身と同じく独りだと謡われるが、なるほど老いて孤独なもと美女・小町の身の上のように独りで立ち、奥ゆかしくもぼんやりと、「おぼろ」に見える。」

この句の典拠は「鸚鵡小町」に「……志賀唐崎の一松は、身の類いなる物を……」である。

（昭和三十三年経済学部卒）

愛読書

佐久間 武

毎月10日に、近くのコンビニで「文藝春秋」を買うことが、私の楽しみです。文藝春秋には、いろいろな記事が掲載されています。週刊誌にもいろいろな記事が掲載されていますが、胡散臭い記事で裁判沙汰になることがあります。文藝春秋には先ずそのようなことはありません。ここ、3年程では、コロナに関する記事が一番多く、二番目は、ウクライナ戦争に関する記事でした。

昨年の最大の記事は、「安部暗殺と統一教会」でした。安部元首相が、7月8日に暗殺されましたが、8月10日の文藝春秋には、20数ページの記事が掲載されました。すごいスピードですね。山上容疑者に殺されるまでの経緯が、詳細に書かれていました。又、その記事の中に、統一教会へ、毎年、日本から5、6百億円が送金され、その金で新宮殿「天苑宮」が建築中とありました。なんと、統一教会の集金力のすごさ。

昨年のノーベル賞はスウェーデンのペーボ博士が、ネアンデルタール人のゲノムの解読に成功したと受賞しました。研究に関する何百ページの本を読む気力はありませんが、関心は非常にありました。今年来日し、文藝春秋にインタビュー記事が10ページのりました。博士の30年間の研究の経緯と成果が書かれておりました。驚くべきは、ネアンデルタール人のゲノムの50%が現代人に断続されているとのこと。現代人と交配があったからで、研究が進めば、70～80%の可能性があると。

『法政関係の記事』

漫才のマジカルラブリーの村上はOBです。太ってメガネを掛けています。漫才の日本一を決める「M-1」で優勝し1000万円をゲットしました。何度も何度も、不屈の精神で挑戦した過程を読むと、頭が下がります。テレビ・ラジオに注目して下さい。

菅総理の記事が多く掲載されました。その中で一番印象に残っている記事は、安倍総理の辞任の噂が立ち始めた時、菅官房長官に対するインタビュー記事でした。官房長官は、答えました。官房長官の職務は多忙です。総理大臣は超多忙ですので、妻から、絶対にならないでと云われてますので、立候補しませんと断言しました。私は百パーセント信じました。ところが、その舌の根が乾くか乾かない内に、さっと立候補して当選してしまいました。霞ヶ関を煙に巻く、深謀遠慮だったんですね。さすが大物政治家ですね。賛嘆しました。

鈴木北海道知事は、国より先に、小学校・中学校をコロナで休校にして、日本中をアツ驚かせました。そして、その詳細を寄稿しました。知事に関しては、過去に一度書きました。高校を卒業して都庁に入りました。その後、法政の夜間に入学し、ボクシング部の主将になりました。北海道の夕張市が、財政破綻を起こしたので都から職員2名が派遣されました。その内の1人が鈴木職員でした。約束の一年がたち、1人の職員は都に帰りましたが、鈴木職員は残りました。5時に暖房が止まり、マイナス5度の役所の中で、オーバーを腰に巻き仕事をしました。2年がたち都庁に帰ろうとしたところ、市民から、市長になって下さいと云われ、立候補して当選しました。その後、北海道知事に立候補して、菅官房長官の応援もあり、目出度く当選しました。

今年4月には、2位に大差を付けて2期目の当選をはたしました。菅総理と同じく苦労人です。法政OBの政治家としてはホープです。文藝春秋の記事で、今後の総理候補ベストテンが発表されました。第7位に付けております。将来、菅総理に続く、OB2人目の総理の夢をぜひ実現させて下さい。家具のニトリの似鳥会長は知事の後援会長です。

酒の肴、商談の席等で、文藝春秋の記事を読んでいると、大いに盛り上がります。

(昭和39年法学部卒)

ジロとサブ

古山 弘

我が家には猫が5匹います。家の中に3匹、外に2匹です。中の猫は、保護施設から子猫でもらい受けた1匹と、なぜか一時期、捨てられたと思われる子猫が立て続けに2匹、我が家の庭に迷い込んできて、野良犬でも怖いのか、植木によじ登り、夜中泣いていました。やむを得ず飼うこととしました。3匹ともメス猫です。

その後、5年程前に、毎日のように我が家の庭に来る猫がおり、たまに餌をやっていました。その猫がある日、2匹の子猫を銜えて来ました。それ以来、毎日のように親子でやって来るので餌を与えていました。ところが、ある日親猫が家の前の県道で車に轢かれて死んでしまいました。孤児になった猫がかわいそうで飼うこととしましたが、中にはすでに3



匹いるので、屋根付きのウッドデッキにテントを張り、その中で寝れるようにしましたが、身の安全を守るには高い所で寝たいらしく、車庫に入り、棚の上で寝ることが多くなりました。車庫ですので断熱材はなく、冬は寒いので何とかしてやりたいと、昨年、物置を兼ねた5坪ほどの家を建て、普通の家と同様断熱材を入れ防寒対策をしました。壁に小窓を開け、自由に出入りが出来るようにし、猫用の棚を作ってもらって寝ています。家の中に植物を置いているせいか冬でも暖かです。

そんな2匹ですが、トラ猫の双子です。名は、赤トラが「ジロー」、黒トラが「サブロー」です。双子でありながら正確は全く違います。ジロは人なつっこくて、やんちゃです。野性的で庭に来る鼠からモグラ、野鳥まで動く物は何でも捕まえ食しています。反面、寂しがり屋の甘えん坊です。家族で外出して誰も家にいなくて帰宅すると、車が庭に入った瞬間に飛んできます。また、休日に庭で椅子に腰掛けていると、膝の上に上がり寝ます。一方サブは、おっとりとしていて、あまり寄ってきません。食事もジロは少し食べては遊んでしまうのですが、サブはじっくりと残さず綺麗に食べます。よその猫が庭に入ってきて、ジロがうなり声を上げていてもサブはただ見ているだけです。そんな頼りなさそうなサブですが、ジロの命を救ったことがありました。

3年前、いつも元気なジロがテントから出て来ず、餌も何日も食べませんでした。病院に連れて行き検査をしてもらったところ、感染症にかかっているとのことでした。何か野生動物のようなものから感染したのではないかとのこと、思い当たることがジロにはたくさんあります。このまま放っておくと、死んでしまう。治療するには輸血が必要だとのこと。猫の輸血なんて聞いたこともありませんでしたが、家に帰りサブを病院に連れて行きました。サブはおとなしく血を採られ、それがジロに輸血されました。3日ほどでジロは回復し元気になりました。サブに礼を言ったかどうか分かりませんが、今日も2匹で元気に遊んでいます。

(昭和49年工学部卒)

大学卒業後、今迄を振り返ってみて

山口 桂亨

私が、法政大学を卒業した平成6年の出来事を調べてみました。自民・社会・さきがけ連立政権村山内閣発足、関西国際空港開港、ビートたけしバイク転倒事故、野茂英雄日本球界を去りアメリカへ、イチロー200本安打を記録・・・ そんな時代でした。

何となく漠然とした大学生活を送ってしまった後、地元の金融機関に就職。その後、金融業界では、金融ビッグバン（金融制度改革）により、銀行業・保険業・証券の各代理店業務解禁。規制緩和され、銀行でも保険、投資信託の取扱いが可能となりました。ペイオフが解禁され預金保険法により保護される預金（決済性預金以外）の上限金額が1千万円となり、また、バブル崩壊後の地価下落の影響と時価会計の導入により、金融機関が抱えていた不動産の担保価額が下落、大量の不良債権が表面化してしまいました。リーマンショックの時は景気の悪化を受け、中小企業者等の資金繰りを下支えすることを目的に金融円滑化法を施行。金利の減免、元本の返済猶予、返済期間の延長等の貸出条件の緩和が行われました。この頃から渉外担当者により行われていた集金活動等も、効率化がはかられ、縮小されていきました。預金金利、貸出金利ともに。年々減少していき、ゼロ金利時代に突入。本業である融資の利鞘のみで収益を上げることが厳しい環境のなか、保険、投資信託等の手数料収入を収益源とする金融機関が多くなりました。近年でも、本来禁止されている、保険・投資信託の抱き合わせ融資や歩積み両建てという行為が平然と行われているので、金融機関から借入を予定されている方は、気を付けた方がよさそうです。

前職では、本部業務、営業店での預金、融資業務を経験。約8年前に生命保険会社に転職しました。転職前、私が保険業界に抱いていたイメージは、しつこい、一方的に売り込まれる、できるだけ避けたい、契約内容が良く分からない、社会的地位が低い、といったマイナスのイメージばかり。採用担当者から、「イメージが悪いのは保険が悪いからではない、保険業界、今まで保険を売ってきた人達が悪いのです。業界改革です。コンサルティングから始めましょう」と、言われました。コンサルティング業務に興味があったこと、業界改革という言葉に惹かれたことから、転職を決意。生命保険は、人の死をイメージさせるネガティブな商品であり、万が一の時、経済的損失に備えるものと考えられています。しかし、65歳までに死亡する確率は5%、重大な病気にかかる確率は22%、ということは、65歳までの生存率は95%、健康に退職を迎えられる確率は78%ということの意味します。最も可能性の高いシナリオ、元気に退職を迎えるシナリオに備える必要性があるのではないかと。確率の低い事態に備え、最も確率が高い事態に備えないのでは意味が無い。自分の将来像を思い描き、その過程で起こりうるポジティブな事柄についても考えるようになりました。これからは、万が一のリスクを備えたうえで、長生きのリスクにも備える必要があります。

保険業界にいと、研修等、学びの機会が多くあります。金融機関にいた頃は気が付かなかったのですが、日本人は金融知識が乏しく、資産形成のルールを知らない。学校でお金の勉強はしませんし、銀行に行っても教えてくれない。近年、国の施策として、iDeCoやNISAが話題になっています。長期間続けていると増えるから、という理由で始められる方が多いようです。しかし、日本人の場合半数以上の方が拠出額よりも受取額が少なくなるといわれています。特に、iDeCoの場合は年金として受け取ると、こんなはずではなかった、という事象が高い確率で発生します。保険にもいえることなのですが、金融商品を選ぶ時は、入口と出口をしっかりと理解されたうえで始められるといいと思います。老後資金の相談のほか、相続が発生した場合何から手を付けていいのか分からない、相続税はいくらかかるのか、遺産分割、一次相続・二次相続はどうしたらよいか、といった相続相談も増えてきております。これからも問題解決に向け、日々精進して参ります。

(平成6年経済学部卒)